

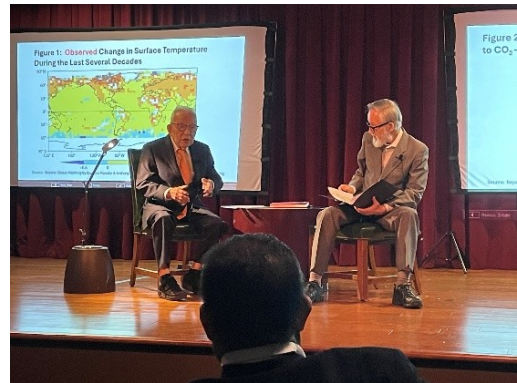
## 研修会報告

「Simplicity and Balance」をテーマにした座談会を開催  
講演者:2021年ノーベル物理学賞受賞者 眞鍋淑郎博士

研修担当理事:須内 康史  
上坪 雄之

2024年5月17日(金)、ワシントン日本商工会は日本大使館広報文化センター、ワシントン日本語継承センターと共にノーベル物理学賞を受賞した眞鍋淑郎先生をお招きし、先生の座右の銘である「Simplicity and Balance」をテーマとした座談会を開催致しました。

眞鍋淑郎先生は1931年に愛媛県でお生まれになり、1953年に東京大学理学部を卒業、1958年には同大学で理学博士を取得後に渡米し、アメリカ国立気象局で勤務されました。1968年にはプリンストン大学客員教授を兼任、2005年にはプリンストン大学上級研究員となりました。その間、二酸化炭素などの温室効果ガスが地球温暖化に影響を与える点にいち早く着目し、大気と海洋の循環を組み合わせた気候変動モデルを開発、そのご功績により2021年にノーベル物理学賞を受賞されました。



座談会では、眞鍋先生はご自身の気候変動モデルを用いて地球温暖化の仕組みと変遷をご説明になり、「地球の平均気温は21世紀中に更に2℃上昇すると予測されており、陸地は海洋よりも、また北極は熱帯よりも大きく温暖化する」との見通しを示されました。また、観測によれば、洪水と干ばつの両方の頻度が増加しており、「温室効果ガス排出量の劇的な削減が達成されない限り、地球温暖化は今世紀の残り、そして今後何世紀にもわたって、地球の生態系と人間社会に多大な影響を及ぼす可能性が高い」との警鐘を鳴らされました。このような中で、地球温暖化対策で経済界が果たす役割の重要性を述べられ、また大きな期待も示されました。質疑応答の中では若い世代に対する期待も熱く語られ、今回の座談会は参加された各人が地球温暖化の現状と対策を真剣に考える素晴らしい機会となりました。この座談会のために遠路遥々ご足労を頂いた眞鍋淑郎先生と奥様に深く感謝を申し上げますと共に、座談会の実現にご尽力頂いたご関係の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

以上

